

辛島市政における熊本市街地の近代化

熊本大学工学部 学生会員 ○森 麻衣子
熊本大学大学院 学生会員 増山 晃太

熊本大学大学院 正会員 星野 裕司
熊本大学大学院 学生会員 尾野 薫

1. はじめに

1-1 背景

現在、地方都市の中心市街地の活性化は全国的な課題となっている。都市の整備計画を立てる上で、その都市独自の個性を見出すためにも、歴史という視点は重要なものである。

熊本市街地にある桜町では実際に市街地再開発事業が計画されており、時代を遡ると城下町から軍地、官公庁街と、様々な変化を経てきた場所である。明治後期には現在に近い市街地が形成されている。

1-2 目的

明治・大正期の桜町周辺において大規模な市区改正事業が行われた、第3代熊本市長である辛島格の市政期に焦点を当て、当時の市街地形成がどのように行われたかを読み解く。

2. 研究対象と研究方法

2-1 対象とする時代

本研究では辛島市政に着目する。辛島格は1897(明治30)年に市長就任、1913(大正2)年に病気で辞職するまで16年間市長として熊本市の近代化に尽力した。

1889(明治22)年に熊本に市制が施行され、熊本市が誕生し、春日駅(のち熊本駅)や池田駅(のち上熊本駅)の完成や1895(明治28)年の日清戦争による人口増加で、熊本のまちにも近代化が求められていた時代であった。

2-2 対象地

(1) 山崎新市街

図1の赤線で囲まれた地域で、現在の桜町、辛島町、練兵町、通町、花畑町である。3章で詳しく述べるが、この地にあった山崎練兵場を大江村に移転し山崎新市街の建設を行った。

(2) 熊本市街地

図1の青破線で囲まれた地域とする。白川、坪井川、花岡山の間に位置している。複数の明治期の熊本市街地図を見ると共通して描かれている地域であることから当時の人々がこの地域を市街地と認識し

ていたと考える。また、現在の繁華街の位置を考慮し、この地域を熊本市街地とした。

2-3 研究方法

熊本の市区改正に関する研究で、水野公寿の「熊本市市長辛島格の市区改正」¹⁾によると山崎練兵場の移転に関する交渉の流れや辛島市政での計画や事業などが郷土史の観点で網羅的にまとめられている。

本研究では練兵場移転後の新市街建設から辛島市政期の市街地の形成を見る。山崎練兵場移転・新市街建設の市区改正事業は明治以降の熊本ではじめての大規模な都市計画であることから、実際に都市づくりが実行された「山崎新市街建設」に着目し、文献などによる年譜的整理と共に古地図による面的な整理を行い、考察する。



図1 熊本市対象市街地図

3. 市区改正事業

3-1 市区改正事業の年譜的整理

辛島格が市長就任後すぐに取りかかったのが熊本市区改正事業である。この事業の流れを文献によりまとめると表-1のようになる。

はじめの4年間で熊本市街地の中心に位置していた山崎練兵場を軍との交渉の結果大江村の渡鹿に移転し、その後練兵場跡地に山崎新市街を造成した。

表一 市区改正年表

1897(明治30)年	辛島格市長就任 山崎練兵場地交換の諮問案提出
1898(明治31)年	市区改正事業許可
1899(明治32)年	市区改正公債募集開始 市区改正工事着工
1900(明治33)年	練兵場と大江村の地所交換 新市街起工式 新市街地売却開始
1901(明治34)年	新市街竣工
1903(明治36)年	山崎練兵場跡地整理竣工
1908(明治41)年	山崎新市街町名及宅地番号の変更
1911(明治44)年	官営煙草専売局落成
1913(大正2)年	市区改正公債償還完了

3-2 山崎練兵場移転

新市街建設の前段階にある山崎練兵場に関して文献と古地図を用い、整理を行う。

山崎練兵場の移転に対し、辛島格は“山崎新市街と稱する一帯の地區は元舊藩士の邸宅ありし處なるが西南の役に際して兵燹に罹り其後陸軍所轄地となり一部に騎兵營及輜重廠あり他は悉く第六師團の練兵場に充てられたるものにして其光景頗る荒寥たるものあり為に市の體裁を損すること甚しきのみならず市は西南東北兩部に隔斷せられ往来交通の便を塞ぎ随って商工業の發達を阻害すること實に尠少ならざりしなり”²⁾と考へていた。都市景観としても交通や商業發展に関しても市街地の中心に練兵場があることは良くないとし、移転が計画された。陸軍との交渉の末、大江村との地所交換により、図2のような市街地が図3のように変化した。

図2 明治25年市街全図³⁾図3 明治34年市街全図⁴⁾

4. 山崎新市街設

本章では山崎新市街宅地割平面図を用い、より詳細な山崎新市街建設の様子を読み解く。

山崎新市街地の売却は、新市街地区を周辺地域と同様な区画に分割し、さらにその区画内で土地を細分化し、等級を16段階で定め、地価を掛けた上で公や個人に向け募集したものであった。しかし、官営煙草専売局は4区画にまたがって土地を購入しているなどの例もあり、かならずしも宅地割平面図の通りの区画で進められたものではなかったと言える。

また図4より、細分化された土地の地価については坪井川周辺が高くなっており、新市街建設に先駆けて架橋した桜橋の当りは特に一等一級という最高値となっている。

図4 山崎新市街宅地割平面図⁵⁾

5. おわりに

今後さらに、山崎新市街建設に関する整理や分析を深め、考察していく。また、辛島市政に計画・実行された事業に関してそれがどのように熊本市街地の近代化に繋がっていったのかを山崎新市街建設事業を通して見ていきたい。

(参考文献・資料)

- 1) 『熊本市長辛島格の市区改正』水野公寿(宮嶋クリエイト第6号、平成6年発行)
- 2) 『辛島熊本市長之功績』山田珠一(熊本県立図書館蔵)
- 3) 『熊本市街全図』(明治25年出版、熊本県立図書館蔵)
- 4) 『熊本市街全図』(明治34年改訂、熊本県立図書館蔵)
- 5) 『山崎新市街宅地割平面図』(熊本市役所歴史資料室蔵)より作成